

発達障害児を対象とした支援と研究の両立を考える

| | | |
|--------|----------|---------------------|
| 企画・司会： | 田村綾菜 | (昭和女子大学) |
| 話題提供： | 小川詩乃 | (京都大学大学院理学研究科) |
| | 村田(福島)美和 | (東京大学先端科学技術研究センター) |
| | 伊藤祐康 | (国立障害リハビリテーションセンター) |
| | 磯村朋子 | (京都大学大学院理学研究科) |
| | 常深浩平 | (いわき短期大学) |
| 指定討論： | 木下孝司 | (神戸大学大学院人間発達環境学研究科) |

[企画主旨]

発達障害児の中には、学習に遅れを伴っている児童が多くいる。学習の遅れは、読み書き障害の特徴に起因するものや、個々の発達障害の特徴に起因するものなど、様々な要因から引き起こされる。このような学習に遅れを伴っている児童の中には、二次障害を起こしたり、不登校に陥ったりする児童もおり、こうした児童への早急な支援が求められている。

企画者らはこれまで、基礎的な読み書きに難しさのある児童や、読解や作文など応用段階での読み書きが苦手な児童、他者とのコミュニケーションに困難があり学校生活への適応に問題を抱える児童など、幅広い特徴を持つ児童を対象に、継続的な学習支援に取り組みながら、実験的手法を用いた基礎研究を通して、発達障害の認知的特徴の解明を試みてきた。

本ラウンドテーブルでは、各話題提供者が、各自の問題意識に基づいてこれまで行ってきた研究結果を紹介し、実際の支援にどう活かしていけばよいのか、あるいは、支援者として関わることからどんな研究が必要だと考えられるかを議論しながら、発達障害児を対象とする支援と研究の両立の可能性について考えていきたい。

[話題提供]

読み書き困難に関わる認知的特徴と実際の支援～アセスメント結果と実態の乖離～：小川詩乃

これまで基礎的な読み書きに難しさがある児童を対象に、読み書き困難に関わる認知的特徴を明らかにし、また実際に支援を行ってきた。これらの中にはアセスメントの結果から予想できないところで躓いている児童もいた。今後、このような乖離をどのようにしていけば良いのか考えていきたい。

読み書き困難における英語学習：村田(福島)美和

小学校の時点で、読み書きに何らかの困難さ伴っていた児童の多くは、中学での英語学習にも困難を示す傾向が高い。それに加え、小学校で何とか読み書きはついて行けたが、中学校の英語ではつまづくといったパターンもある。本研究では、中学での英語学習の困難さについて考えていきたい。

自閉症児における推論：伊藤祐康

自閉症児の特性において、よく見られるもののひとつに、例外学習の苦手さがあげられる。彼らの例外学習の苦手さは論理演算に置き換えると排他的論理和になっていることに気づく。本研究では自閉症児に論理パズルを実施し、彼らの推論の仕方を精査し、その結果を報告する。

自閉症児における表情に対する感受性の発達：磯村朋子

自閉症スペクトラムをもつ人が他者とのコミュニケーションに困難をもつ理由のひとつに、表情認知の難しさがある。本発表では、自閉症児の表情に対する感受性について発達の観点から調べた研究を紹介し、このような認知的基礎研究が今後の支援に貢献できる可能性について考えていきたい。

物語教材を通じた視点取得能力育成の試み：常深浩平

読み聞かせから国語教育に至るまで、物語は古くから学習・教育に活用され、現在も広く利用されている。しかし、何を育てているのかという点では科学的裏付けが弱い部分もある。本発表ではその中でも視点取得能力に注目し、その基礎過程と、それに基づく教材開発・実践例について報告する。